

# 校内研修計画

山梨市立山梨小学校

## 1, 学校課題

21世紀は「知識基盤社会」といわれている。「知の創造・継承・活用」が基盤となる社会に主体的に関わることのできる児童・生徒を育て、送り出していくことが学校教育に求められている。そのため学校ではたくさんの知識を習得させるだけでなく、習得された知識や技能を生かした柔軟な思考力に基づく判断ができる児童・生徒を育成していかなければならない。しかし、PISA調査の結果や、全国学力・学習状況調査の結果を見ると、知識・技能を活用する力に課題が見られ、活用する力をつけるため、思考力・判断力・表現力の育成が、大きな課題として取り上げられるようになった。

昨年度実施された新学習指導要領では、「生きる力」(確かな学力・豊かな人間性・健やかな体の理念を引き継ぐとともに、改正教育基本法で示された学力の三つの要素「基礎的な知識・及び技能」「思考力・判断力・表現力その他の能力」「主体的に学ぶ態度」を育むことが重要であると明確に示している。「生きる力」の育成は、本校の教育目標に照らしても重要なことであるといえる。

本校の児童は、全体的に明るく素直で、学習や児童会活動、朝の活動などに前向きによく取り組んでいる。また、一昨年から、挨拶・返事・話す態度・聞く態度など、生活や学習の基本となることに全校体制で取り組むことにより、しっかりとした態度で集会に参加することができるようになるなど、集団としてよい方向に進みつつある。また、各クラスで話しやすい学級作りや、表現力の育成を目指した指導を行ったことにより、授業中自分の意見をしっかり言えたり、少人数グループの中で生き生きと話し合ったりする姿が見られるようになってきた。しかし、意見を言うことはできても、互いの発言の内容をよく理解し意見のやりとりをするなかで学習を深めるといった、双方向での表現は難しいという課題もあげられている。「表現しよう」とする児童が増え、意欲の高まりも感じる今、更なる取り組みの必要性を感じる。

## 2, 研究主題

よく考え、すすんで学習する子供の育成  
～ 相手を意識した表現の工夫～

## 3, 主題設定の理由

昨年度の研究では、どうすれば子供たちの表現力が高まるかについて様々な手だてを試みた。一人一人の表現力の向上については一定の成果が得られた。しかし、表現した内容を生かし、お互いの意見を聞き合い、関わり合って学ぶという双方向の表現について課題がみられた。

日常生活では、挨拶、会話、伝達などが適切にできることが必要である。また、学年に応じて必要な意見、感想の表現ができ、対話、会話、発表等が場に応じてできるようにしていかななくてはならない。表現することには必ず表現の受け手がいる。相手の表現したことを理解し、それを受けて自分の考えを表現することで学びが深まっていくような学習をめざしこの主題を設定した。

#### 4, 研究の具体的内容と方法

##### 研究(1)

- 講師を招いての学習会
- 表現力に関する実態調査
- 発達段階に応じた表現力
- ブロック別の研究会
  - ・ブロックの課題の明確化 児童に付けたい力(めざす児童像)の共通確認
- 授業実践
  - ・ブロックごと1本ずつ(ブロック別の共同研究) 教科は自由
- 一人一実践の取り組み

##### 研究(2)

- 日常的な言語環境の充実
- 話しやすいクラスの雰囲気作り
- 話し方・聞き方の指導
- 語彙を広げる指導
- 読書活動・スピーチ活動・日記の習慣化の推進

#### 年間校内研修計画

研究主任 中村悦美

テーマ	研究内容	教科	担当	学年	時期	TC
よく 相 手 を 意 識 し た 学 習 の 工 夫 の 育 成	研究主題・仮説・内容・方法・計画等		研究主任		4月	
	研究計画・研究組織・授業研究について		研究主任		4月	
	各ブロックの研究		ブロック長		5月	
	通信表の評価について		教務主任		5月	
	学習会		研究主任		6月	
	各ブロックの研究		ブロック長		7月	
	各ブロックの研究・個人の実践について		ブロック長・個人		7月	
	教育課程環流学習会・ブロック研究		教科主任,研主,ブ長		8月	
	ブロック研究		ブロック長		8月	
	各ブロックの研究		ブロック長		9月	
	授業案提案		研主,ブ長,授業者		9月	
	授業研究会	未定	研主,ブ長,授業者	低	10月	
	各ブロック研究		ブロック長		10月	
	授業案提案		研主,ブ長,授業者		10月	
	授業研究会	未定	研主,ブ長,授業者	高	11月	
	ブロック研究のまとめ		ブロック長		11月	
	個人実践のまとめ		各担任		11月	
	実践報告会		低・高学年ブロック		1月	
研究のまとめと次年度の方向性について		研究主任		2月		
研究紀要綴じ込み作業		研究主任		2月		

